令和５年度
下山地区わくわく事業
実績報告集

豊田市役所　地域振興部
下山支所

わくわく事業とは ～事業概要～

わくわく事業は、地域資源（人材・文化・自然など）を活用して、
「地域課題の解決」や「地域の活性化」に取り組んでいる団体の事業を支援する制度です。

■応募資格

①５人以上で組織された団体
②活動が地域の多数の住民に支持される団体
③政治活動、宗教活動又は営利活動を目的としない団体
④暴力団と密接な関係を有しない団体

■補助上限額

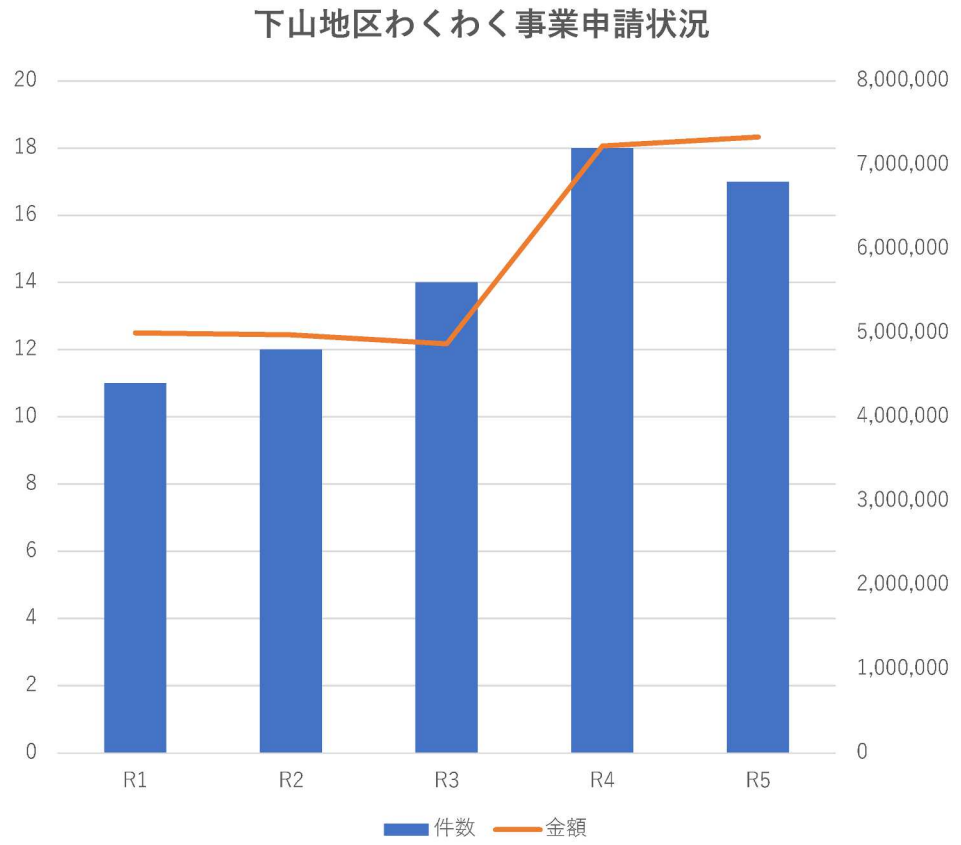
年１００万円／団体

下山地区わくわく事業
近年の現状

令和4年度からの地域自治システム刷新に伴い、わくわく事業の１地域あたりの予算上限500万円が撤廃された。

そのため、申請全団体を審査し交付を決定することが可能に。

申請事業数、申請補助金額ともに**増加傾向**となっている。



令和５年度の下山地区わくわく事業

1次募集交付決定団体（15団体）

	新規	団　体　名	補助申請事業名	交付決定額(円)
1		阿蔵組	農村舞台襖絵修理及び欠失面の復元画作成	472,000
2		榎木前環境美化隊	地域生活環境の改善	628,000
3		大沼支障木整備部会	大沼町地内の支障木整備	294,000
4		大沼まちづくり部（塚本・鳥屋地区）	ロウバイ花木で大沼の四季を彩る景観づくり	129,000
5		元気の郷づくりの会	地域住民で協力し、憩いの広場を守る整備事業	103,000
6		下山スポーツフェスタ実行委員会	下山スポーツフェスタ	357,000
7	新	しもやまみんなの学び舎＊たんぽぽ	みんなでつくる地域と学校	384,000
8		しもやまるしぇ実行委員会	しもやまるしぇ	698,000
9		しもやまロケットプロジェクト	こどもが育つ☆モデルロケット教室	282,000
10	新	田平沢自治区おっさんズ.クラブ	区民の健康増進と、絆を深めるためのスポーツ事業	198,000
11		土々目木クラブ	土々目木川河川敷美化事業	194,000
12		花一・よらまい会	花山わくわく広場	86,000
13		羽布林道整備隊	林道障害木伐採、路面、側溝管理	219,000
14		三河湖の自然と環境を考える会	三河湖の自然を理解して楽しむ事業	891,000
15		八沢の丘公園整備委員会	旧大沼小学校跡地の公園化整備	949,000
				5,884,000

2次募集交付決定団体（2団体）

	新規	団　体　名	補助申請事業名	交付決定額(円)
16		花沢５組環境整備隊	花沢5 組地域内 6-7-8 ブロック道路脇 枝払	452,000
17	新	想家PROJECT	地域活性のために空き家再生事業で関係人口を増やそう！	998,000
				1,450,000

1 阿蔵組

代表者：小木曽　義一郎
活動場所：阿蔵　須賀神社農村舞台
事業名：須賀神社所蔵　農村舞台襖絵修理及び欠失面の復元画作成

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

阿蔵地域に古くから伝わる三番叟を長く継承するため、襖絵の修復と復元を愛知芸術大学に依頼し行っている。また、学生に携わってもらうことにより、少しでも阿蔵地区のことに興味を持ってくれることを期待している。

具体的にどのような活動を行いましたか

令和3年度からの継続事業であり、不足の1枚を含め、今年度は襖絵の修復・復元の完了する年である。また、本来三番叟を奉納する大祭もコロナということで神事のみで執り行われた。そのため、修復と復元のみとなった。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

襖絵の修復と復元が完成し、令和６年の大祭にはお披露目できる予定である。これからが、伝統の継承や交流人口を増やすことの本番である。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

三番叟は、地域民だけでは継承していくことが難しいため、地域から出て生活している人に、盆と正月だけでなく大祭の日にも在所へ帰ってきて参加して頂きたい。また携わってくれた大学生や講師陣を招待し、三番叟だけでなく念仏踊りにも興味を持ってもらい、交流人口の増加を期待する。

２榎木前環境美化隊

代表者：恩田　友明
活動場所：豊田市花沢町榎木前地域
事業名：地域生活環境の改善

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

　自然を大切にしつつ、支障木を除去することで、安心・安全な生活に繋がる。メンバーが互いに協力し合いながら作業をすることでチーム一丸となり、連携強化につながった。

具体的にどのような活動を行いましたか

・のり面は、急勾配で高木の為、業者に依頼。低木は自分たちで剪定
・切断した木をリレー方式で収集し、パッカー車へ切断した木を投入
・通行車両の安全確認と誘導

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

・支障木による住居・走行車両・歩行者への倒木防止
・広葉樹からの落ち葉の減少
・支障木を除去したことで日差しの回復

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

・作業通し、コミュニケーションの向上に繋がった（チーム一丸）
・怪我がなく作業を完了できた事に感謝している。（安全第一）
・作業を通し、生活改善活動の必要性を強く感じたので下山地域を巡回し意見具申をしたい。（環境）

３大沼支障木整備部会

代表者：天野　菊治
活動場所：大沼1組、3組、5組
事業名：地域生活環境の改善

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

　生活道路、歩道の支障木を近隣住民と業者さんと協力し、伐採を行う。

具体的にどのような活動を行いましたか

　通常環境整備では行えない所を、高所作業車、チェーンソーを使用して生活道路の安全確保を行った。

高所作業車による伐採の様子

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

高所の枝などを伐採し、道路環境が良くなった。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

　大沼地区は高齢化が進んでおり、広範囲の環境美化整備にも限界がある。地元の協力を得ながら支障木伐採に貢献できた。今後、ほかの地域にも展開していきたい。

４大沼まちづくり部（塚本・鳥屋地区）

代表者：松井　和夫
活動場所：大沼自治区内
事業名：ロウバイ花木で大沼の四季を彩る環境つくり

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

大沼川沿道の花木で四季を彩る環境つくりのために、草刈り、花桃の植栽、休耕田へのコスモス整備を通じ有志参加や周辺との連携強化をする。

具体的にどのような活動を行いましたか

・ロウバイ　大沼川植栽周辺の草刈り　２回（６月、１０月）
・花桃　　草刈り整備および植栽２０本（１２月２５日）
・コスモス　休耕田２区画耕転（５月）種まき（５月）およびシカ食害防護柵の設置

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

活動を通じ、コロナ禍で疎遠になりがちな住民間のつながりを維持できた。また、ジョギングをする若者、ペットとの散歩や幼児を連れての家族利用も散見されるようになった。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

ロウバイ、花桃、コスモス、雪で「四季を彩る農道」にはまだ年数がかかります。ぜひ、どなたでも気軽にご利用ください。

5 元気の郷づくりの会

代表者：武藤　富保
活動場所：わくわく広場
事業名：地域住民で協力し、憩いの広場を守る整備事業

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

住民の気持ちが「地域課題の解決」や「地域の活性化」等から離れていく中、皆で協力し住環境を整えていこうという意識を持ち続ける為にはどのような活動するか。会員を中心とした一部の住民だけに負担が掛かる事を避けるよう、計画をした。

具体的にどのような活動を行いましたか

わくわく広場の草刈り作業等において、地域住民の方々の協力を得やすい日に実行した。広場の利用に当たり、トヨタ工業学園さんの地域応援日程時に併せ会員と協力し、コナラ・山桜の苗木の植樹した。又、後日会員の手で残りのコナラを植樹した。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

・多くの住民のみなさんに参加していただき、一部の会員の負担の軽減が出来た。
・「わくわく広場の現状」を知って頂けた。
・地域外（トヨタ学園）の皆さんと交流が出来た（協力して植樹・合同でバーベキュー）

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

トヨタ学園の皆さんと協力できた事で、樹木の生育を観察するという楽しみが出来た。地域住民の皆さんに事業の進捗状況を、機会をとらえ報告をする。また、女性会員の募集を始めていきたい。

６下山スポーツフェスタ実行委員会

代表者：川合　晃司
活動場所：下山地区全域
事業名：下山スポーツフェスタ

↑当日の様子はコチラ
（公式Youtube）

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

誰もが気軽に参加でき、楽しく交流できるスポーツイベントの開催を通じ、地域での繋がりを広げ、まちづくりの担い手の輪を広げていくことを目指す。

具体的にどのような活動を行いましたか

地区住民全員を対象としたイベントを開催し、地域の関心の高いラリーカーのデモ走行や展示を行い、多くの住民の参加を得るとともに、ダイジェスト動画を公開し、地区外にも広く下山をＰＲした。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

WRCドライバーへの寄せ書きフラッグ作成など、地域住民の体験や関わりを重視した内容にすることで住民からの共感を得られた。「京都の女の子」の盆踊りでは、中学生が率先して参加してくれたことで、特に盛り上がるイベントとなった。その模様を動画として公開することで、元気な下山を広くＰＲすることができた。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

大会への参加を通して多世代間交流を図り、地域の人を知り、地域を考える機会としたいと思っている。将来を担う世代が地域に関心を寄せることで、下山への愛着を育むことに繋がっていけばと考えています。

7 しもやまみんなの学び舎＊たんぽぽ

代表者：志賀　祐子
活動場所：下山地区
事業名：みんなでつくる地域と学校

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

地域内で子育て世代が知り合う機会が少ないことを地域課題ととらえ、子育て世代だけに限らず、地域の人々が知り合えるイベントを企画した。

具体的にどのような活動を行いましたか

夏に行った「みんなの学校」上映会＆交流会の参加者は161名、また、秋に行ったピザ交流会では、赤ちゃんから高齢者まで58名の方に参加していただけました。
２つの交流会では、ファシリテータ講習会で学んだカクテルパーティーという技法を用い、初対面の方同士でも会話しやすい環境をつくりました。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

子育て世代の交流の場を作るという目標は達成できたが、継続していくことも大事にしていきたい。次回以降も中学生ボランティアなどと協力しながら続けていきたい。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

たんぽぽの企画にどんどん参加してもらい、広い世代で知り合い、下山をより住みよい地域にしていきたい。また、活動に賛同してくださる方、お手伝いをしてくださる方を募集しています。

8 しもやまるしぇ実行委員会

代表者：浜島　有哉
活動場所：香恋の館　ふれあい広場
事業名：しもやまるしぇ

↑公式Instagram

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

コロナ禍以降、交流イベントが減少し、地域の活気が低下していると感じていた。住民が自分の得意分野や趣味を活かして他者に貢献し、収益活動等を始められるきっかけを提供することによって、地域の活性化に繋がると考え活動を行った。

具体的にどのような活動を行いましたか

若者と共にイベントを企画し、下山中学校の学生ボランティアを募集した。目標は、三河湖の清掃を皮切りに、集めた流木でペイントアートを作成し、それをイベントの装飾に利用すること。参加者が企画段階から実施まで一貫して関わる体験を提供することで、地域の若者に活動への参加を促すことを狙いとした。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

多くの学生ボランティアが参加し、普段は交流のない人々との関わりを持つことができた。さらに、下山地区からは多数の出店者が集まり、このイベントが活動開始のきっかけとなる場を提供できたと感じている。当初の目標を達成し、地域の絆を深める貴重な機会となった。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

多くの人が協力し、得意を活かして成果を出せることが下山地区の特色である。自然が人々をつなぎ、楽しい生活を支えるこの地で、内側からの活性化がこれからも大切だと思う。

９ しもやまロケットプロジェクト

代表者：伊藤　いぶき
活動場所：下山中学校
事業名：こどもが育つ☆モデルロケット教室

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

　下山地区に小中学生の活躍の場がなかなかないのでこの教室をつくった。下山地区に来たことがない、知らない人がまだまだ多いので、ロケット教室をきっかけとし、下山地区を知る人や下山地区に来る人の増加を目指す。

具体的にどのような活動を行いましたか

　毎月、ロケット教室を開催した。教室内容は動画視聴、ロケット制作、発射。紙のキットになっており、１５点の部品を１時間ほどかけて組み立て、火薬を入れて飛ばす。制作は小学生が行い、発射は中学生が行った。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

　小中学生が毎月のロケット教室のスタッフとして動くことで、自分たちで考えて動く、自分から参加者に声をかける、困ったら助けてと言う、などの主体性が育った。ロケット教室がきっかけで、下山地区を知る人や下山地区に来る人が増えた。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

　３年半で５００人以上のこどもたちが来てくれた。スタッフの仕事を楽しみながらできるこの子たちは本当に素敵だなと思う。わくわく事業からは抜けますが、下山で、長くロケット教室が続けられるようにがんばっていきたい。

10 田平沢自治区おっさんズ・クラブ

代表者：鈴木　宏金

活動場所：田平沢自治区内

事業名：区民の健康生活増進、絆を深めるためのスポーツ事業

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

高齢化が進み、スポーツをする機会や区民が集まる機会が減少している現状がある。老若男女だれでも参加できるスポーツであるグランドゴルフ用品を整備し、大会を実施し、健康生活の増進を目指した。

具体的にどのような活動を行いましたか

各戸にグランドゴルフ大会開催の案内を配布し、グランドゴルフ大会を2回開催した。1回目の参加人数は少なかったが、2回目は整備した用品の数以上の方が参加してくださった。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

老若男女の方が参加してくださり、全員が1打1打に一喜一憂し、その都度会話が始まり絆が深まった。また、2ラウンド行うことにより、日頃の運動不足も少しは解消でき、健康生活増進に寄与できた。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

大勢の区民がもっと気楽に参加できるよう、開催時期、募集方法等改善する。遠慮せず参加していただきたい。

11 土々目木クラブ

代表者：河合　毅
活動場所：花沢1組
事業名：土々目木川河川敷美化事業

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

花沢1組地内の土々目木川の堤防に沿って農道があり、小学生の通学路になっている。ヨドガワツツジ等を植え、草や木を切って河川敷をきれいにし、地域の人に喜びと希望をもってもらいたいと目標を立て、12年間活動した。

具体的にどのような活動を行いましたか

堤防にヨドガワツツジを約2700本植えた。また、毎年3回の草刈り、施肥、支障木等の伐採、ツツジの剪定を実施。会員で草刈り、ツツジの補植を例年実施。トヨタ工業学園の生徒の受け入れも行った（ツツジの剪定、除草、農道の清掃）。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

会員は16名から多いときは25名となり、12年間の活動で、ツツジが大変きれいに咲いた。地域の人から感謝の言葉を時々聞くことがある。また、トヨタ工業学園の社会貢献活動によりさらに景観が良くなり、児童の通学路としても安全が確保された。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

多くの人々の協力により目標は達成した。土々目木クラブは解散しますが、活動は花沢1組の組長を中心に行う予定。5月中旬にはツツジが満開になり、約1.5ｋｍの土々目木川周辺に美しい景色が広がりますので、ぜひご来場ください。年間を通じて楽しく散策できます。

12 花一・よらまい会

代表者：加川　政代
活動場所：花山わくわく広場（花沢1組　易往寺敷地内）
事業名：花山わくわく広場

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

地域住民が安心して利用できる交流場所がないことで、社会性や健康にも影響があると思い空地の整備を実施。広場の活動が広がり、住民同士の交流がしやすくなることを目標とした。花沢１組の第一避難所でもあり、「防災かまどベンチ」の設置で利用条件の向上を行った。

具体的にどのような活動を行いましたか

間伐材利用のベンチ追加とベンチに防腐剤の塗布及び防草シートの杭打ちを行い、定期的な草刈り、砂場整備を実施した。11月のイベントでは、ピザ作り、グランドゴルフの体験や、防災かまどベンチを使ったポトフや焼き鳥づくりを行った。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

広場の周知が広がり、様々な年代の方と交流ができた。第一避難所として、高齢者が座る場所があったことで長時間の待機場所として椅子が有効に活用できた。また、メンバー同士での協力体制が深まった。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

近年、地域交流の場が減少していく傾向にあり、住民の情報が得られにくくなってきた。また、それにより自然災害に対応していくことの難しさを感じる。そのため、住民同士の意識的な交流が必要だと思う。

13 羽布林道整備隊

代表者：安藤　実
活動場所：羽布町地内林道2路線
事業名：林道障害木伐採、路面・側溝管理

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

利用者の多い林道であるが、管理が行き届いておらず放置されがちである。ラリーが町内の林道で実施されるようになったのを機に、障害木伐採や路面・側溝管理を行いながら必要な知識、技能の伝承をして後継者の育成をしていく。住民全体で共同作業ができる地域をめざしたい。

具体的にどのような活動を行いましたか

路面の掃除をし、落ち葉や土砂等の除去を実施した。また、路肩に生えている支障木を伐採した。側溝も枯れ枝、枯れ葉、土砂の堆積があり排水に支障をきたしている箇所も多く、重機の力を借りながら作業し長年の堆積物が無くなりきれいにすることができた。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

道路延長が長いため、重点対象部を決めて作業を計画したが準備の遅れや、メンバーの都合もあり予定回数の実施はできなかった。しかし、側溝がきれいになり路面の土や落ち葉がなくなった状態はすがすがしくも見えた。活動日以外でも清掃作業の跡が見られるようになった。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

地域を自分たちできれいにしようとする気持ちはみんな持っているので、声をあげて地域をみんなで守っていけたらと思う。

14 三河湖の自然と環境を考える会

代表者：川合　弘太
活動場所：三河湖周辺
事業名：三河湖の自然を理解して楽しむ事業

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

三河湖観光の閑散期である冬季から早春の三河湖の魅力を高め、閑散期の観光客を増やすことを目指した。全国的にも記録的な大きなワカサギ(デカサギ)が釣れる話題性があることにより、関係交流人口の増加に繋がりつつある。

具体的にどのような活動を行いましたか

春には改善を重ねたふ化装置を用い、ふ化率の上昇に取り組んだ。また、日々釣果情報を収集し、来年に繋がる実績データを作成した。早春の三河湖の魅力を高める為に、アマゴ・イワナの放流や釣り大会の実施を行った。また、定期的な清掃活動や、魚を食べるイベントも実施した。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

ワカサギのふ化率が20%から50%へ上昇したことにより、2023年度ワカサギ釣果実績は339匹から7363匹へ上昇した。また、釣果の上昇や各種メディアでの取り上げ、各SNSの告知の取組により認知度が高まり、年末年始の早朝には、駐車場が満車になるほどの観光客の増加に繋がった。期間中実施していた三河湖ワカサギダービーエントリー人数は、目標50名に対して54名の申し込みとなった。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

今後も、三河湖ワカサギ(デカサギ)が閑散期の三河湖観光の柱となるように善処していく。三河湖地域の魅力と可能性を広めていくため、地域の活性化と観光振興に向けた取り組みを継続し、地域コミュニティとの連携を強化していく。

15 八沢の丘公園整備委員会

代表者：鈴木　雅弥
活動場所：豊田市大沼町矢沢
（旧大沼小学校跡地）
事業名：旧大沼小学校跡地の公園課整備

顔の見える地域をつくろう
WE LOVE しもやま
地域内交流

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

小学校の跡地を、子どもから高齢者まで集える公園「八沢の丘ひろば」として整備し、笑顔あふれる街づくりをめざしている。整備や利用などの共同参画を呼びかけ、地域外との交流も大切にし、下山ファンを増やして地域活性化に貢献している。

具体的にどのような活動を行いましたか

地元ボランティアやトヨタ学園生、トヨタ企業の有志とともにグランド北側斜面の間伐や雑木の伐採を進めてきた。斜面に階段を組んで散歩できるコースを作り、グランドの草刈りやグランドキーパーの作業も続け、すっきりとした環境にした。大木のクロガネモチの枝や藤棚の支柱を生かしてブランコを取り付けた。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

色々な人から提案や整備への協力があり、利用者参画型として地域活性化への兆しが見えてきた。１１月に行われたピザ釜による手作りピザイベントでは、子どもたちも遊具や看板の色塗りをした。テーブルやイス、遊具に色づけて設置したことで、明るく楽しい雰囲気が生まれ、利用者も増えてきている。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

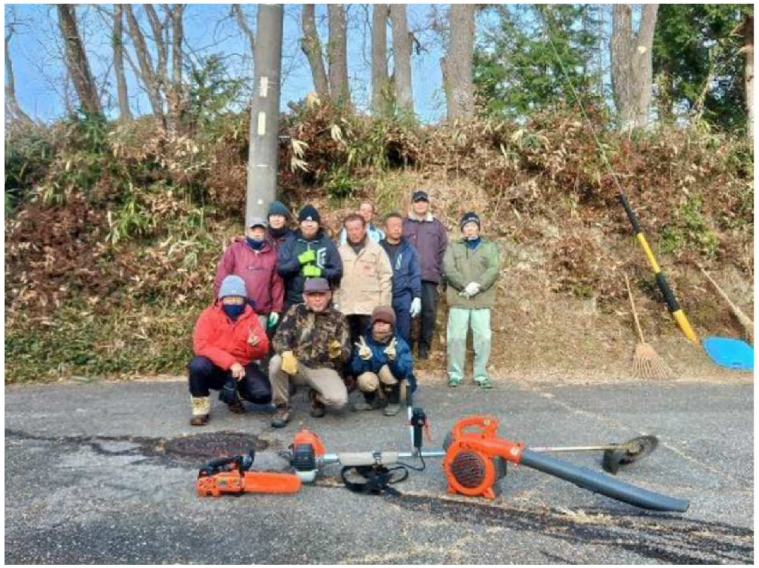
多くの方が八沢の丘ひろばで楽しんでいただきとてもうれしい。６年度はウッドデッキのステージを作って、子どもや家族・多くの仲間が集まり、よりみんなで楽しめるような環境づくりをしていく。皆さん、私たちといっしょに八沢の丘ひろばを作りましょう。

16 花沢5組環境整備隊

代表者：平井　達也
活動場所：花沢5組地内　6，7，8ブロック道路沿い
事業名：花沢５組地域内　環境整備

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

以前より落ち葉が道路に敷つまる為、すべってしまう事があったり、側溝に落ち葉がつまってしまい、清掃活動にも負担があった。枝払いにより落ち葉を軽減し安心に通行出来る。



具体的にどのような活動を行いましたか

該当するブロックの住民に声を掛けて参加者を募集。枯葉落ち葉の原因である木が高所の為、業者に要請し枝払いをお願いした。住民はその枝払いされた枝の処理、裁断、運搬（山側に戻し）、道路沿いの草刈りを実施。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

見違えるほど景観が良くなり、参加者のみならず通行する方からも「すごくきれいになったね」、「これで秋のシーズン落ち葉に悩まされる事もなくここが通れる」などとお声がけいただき、達成感を味わった。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

やれる事は基本自分たちで活動していきたいが、高齢化が進む地域内の状況では動ける人が率先して地域の困りごとを解決していかなくてはいけない。

17 想家PROJECT

代表者：木下　貴晴
活動場所：豊田市羽布町地内
事業名：地域活性のために空き家再生事業で関係人口を増やそう！
Email :omoya.shimoyama@gmail.com

どのような「地域課題の解決」や「地域の活性化」を目指しましたか

ワークショップを通して下山の空き家問題を知ってもらい、関係人口の繋がりを作る。そして地域住民と関係人口の交流を図り、直接コミュニケーションをとることで移住検討者がイメージしやすい環境をつくる。自治区内の交流が減ってきている中で、この機会に、交流を深め住民同士がコミュニケーションをとれる場を増やし、絆が深まる。

具体的にどのような活動を行いましたか

10月に作成した竈門を使用した新米試食会を実施し、約30名の方に来場していただいた。はざかけ米を初めて食べてもらう方にもしもやまのお米のおいしさを堪能してもらった。計5回のワークショップにて、畳はがし→天井はがし→床板はがしのワークショップを行い、空き家を修繕する際の作業をスタッフ・参加者が学んだ。

（目標に照らして）どのような成果がありましたか

空き家修繕のワークショップを単発ではなく通しで実施したことで、参加者とスタッフ同士が親睦を深めることができた。しもやまの魅力である「人・景色」に濃厚に触れてもらうことで、リアルなしもやまを感じ、移住を検討している人がこのイベントでしもやまに住むことを決めてくれた。また、他地域での困りごとも共有して一緒に考えることができた。

活動を通して感じたこと、地域に伝えたいこと、会員募集等

活動を通し、しもやまのことを知りたい方々がこんなにもいて、地域の人たちがこんなにも応援してくれているんだと肌で感じることができました。この暖かい空間をぜひ一緒に共有しませんか？

WELOVEしもやま